

# ゼミナール大会



## 第54回経商合同学内ゼミナール大会を開催

経済学部・商学部が合同で行っている学術大会です。さまざまなゼミから学生たちがチームを組んで参加し、約1年間にわたって学んできた研究成果の集大成を披露します。54回目を迎えた2018年度は、研究発表部門、プレゼンテーション部門、有志部門に分かれ、経済学部から29ゼミ116チームが参加。年に一度の貴重な機会を生かし、学生間でも積極的な意見交換がなされるなど、大会は大いに盛り上がりました。



参加した  
学生の声

企業が今直面している課題を取り上げ、具体的な改善策を提案しました

発表テーマ

上司評価制度は企業にとって有益か否か

近年、「パワハラ」が日本社会で大きな問題になっています。現在、このパワハラを減らす方法として「上司評価制度」の導入が有効であると考えられており、導入企業からは上司と職場の改善につながるという意見も多くみられます。そこで私たちのチームは、企業が上司評価制度を導入した際の離職率や株価への反応を分析し、企業にとってのメリットがあるかどうかを探りました。

調査は企業1408社へアンケートを送付し、180社からいただいた回答をもとに分析を実施。パワハラの背景として「職場のコミュニケーション不足」や、「上司のコーチング力不足」などの実態が見えてきました。そこで具体的な改善策として、社内評価制度の研修会の実施や制度実施における社外委託を提言に盛り込むことを考え、それらをスライドに分かりやすくまとめ、プレゼンテーションの練習を繰り返し行いました。

その結果、ゼミナール大会で優勝を勝ち取ったほか、学外のゼミナール大会でも最優秀賞などを獲得。「企業にとって新規性のあるテーマでおもしろい」という講評もいただきました。

今後はこのゼミ活動を通じて得た経験や知識を生かし、自身の納得する進路に進むことが目標です。



▲日本全国の経済系ゼミが集まる大会で第3位を獲得



▲関西ブロック大会では最優秀賞を受賞



4年次生  
山本 太成さん  
(中川ゼミ所属)



中川 ゼミ

ファイナンス論を通じて日本の経済問題を考えます

### ▶ 社会に出てから役立つ企業金融の知識を習得

「ファイナンス論」と呼ばれる経済学の中で、「企業金融論」という分野を扱います。例えば「わが社はどうすれば銀行からお金を借りられるのか」という課題の解決法や、逆の立場から見れば「どの企業にお金を貸し付ければ地元経済を活性化できるのか」といった、将来に役立つ内容を学びます。ゼミでは金融に特化した新聞・テキストを使って基礎を学習し、証券取引所などの見学も行います。さらにグループ研究、プレゼン大会への参加、卒業論文の作成までを一貫して行うことで、問題解決能力、自己表現能力、文章作成能力を養います。これらの活動を3年次末までに終え、その実績をもって就職活動に臨めるようにしています。



金融・会計専修  
中川 竜一 教授

